



発行人／吉岡正人広報委員長  
 発行／公益社団法人千種法人会  
 〒464-0067 千種区池下1-4-18井上ビル3F  
 電話 (052)763-0951  
 企画・編集／東海紙工株式会社・株式会社グラネット  
 印刷／東海紙工株式会社  
<https://hojinkai.zenkokuhojinkai.or.jp/chikusa/>



日本ハグ協会会長  
 株式会社ハグニケーションズ代表取締役

高木さと子さん

令和八年  
年頭のごあいさつ



公益社団法人 千種法人会 会長  
廣瀬 光彦

皆様、あけましておめでとうございます。

令和8年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様をはじめ関係各位におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、日頃から千種法人会に対して格別のご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当会は、昭和43年9月5日に創立され、昭和55年6月3日には社団法人として設立が認可されました。このような長い歴史を積み重ねる中で公益社団法人として活発で公益性の高い事業活動を展開できますのも、役員の方々をはじめ、会員の皆様の当会に対するご理解と真摯な取り組みのおかげであり、ここに改めて感謝申し上げる次第であります。

われわれ法人会は、「税のオピニオンリーダーとして、企業の発展を支援し、地域の振興に寄与し、国と社会の繁栄に貢献する経営者の団体である。」という基本理念に基づき、税知識の普及や納税意識の向上を目的とした事業、地域社会への貢献を目的とした事業に、役員をはじめ会員の皆様と共に幅広く積極的に活動を展開してまいりました。

令和7年度税制改正では、物価上昇局面における税負担の調整の観点から、所得税について基礎控除及び給与所得控除の見直しが行われ、長く続いてきた「年収103万円の壁」が引き上げられました。また、就業調整対策の観点から、大学生時代の子等を持つ納税者に係る新たな所得控除として特定親族特別控除が創設され、さらに同一生計配偶者や扶養親族等の所得要件が引き上げられるなど、大幅な税制改正が行われておりますので、税務協力団体として税務署と連携を図りながら、「年末調整事務説明会」を実施してきましたほか、従来から実施してきております「新入社員研修会」、「名東区民まつり」、「改正税法研修会」、「やさしい法人税セミナー」、「千種区民まつり」、「初心者のための源泉所得税研修会」、「中間管理者研修会」、「自主点検チェックシート研修会」、「事業継承セミナー」などの事業を実施することができました。また、経済ジャーナリストの須田慎一郎氏を講師としてお招きした経済講演会も開催できました。これもひとえに会員の皆様方のご理解ご協力のお陰であり感謝申し上げます。

ここに新しい年を迎えましたが、本年も「よき経営者を目指すものの団体」として地域や会員企業の発展に貢献できる「魅力ある法人会」の事業活動を展開できる年となることを強く切望いたします。

最後になりましたが、税務ご当局をはじめ関係各位の変わらぬご指導、ご支援をお願い申し上げますとともに、会員の皆様の益々のご繁栄とご健勝を心から祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

広報誌「ちくさ」2月号 目次

年頭あいさつ	1
表紙の人	2
高木 さと子 さん	
署長インタビュー	4
千種税務署長 小池 一彰 氏	
千種法人会 経済講演会	6
経済ジャーナリスト 須田 慎一郎 氏	
賀詞広告	8
report	9
納税表彰式	
report	10
新設法人説明会	
広報委員会	
源泉所得税研修会	
令和7年度税制改革に係る年末調整事務研修会	
青年部会・女性部会合同研修会	
税務連絡協議会税に関する優秀作品表彰式	
税に関する絵はがきコンクール優秀作品	
report	12
中間管理者研修会	
事業継承セミナー	
自主点検チェックシート研修会	
副署長講演会	
県連・女連協情報交換会	
第39回「法人会全国青年の集い」山梨大会	
県連税制講演会	
県連運営研究会	
女性部会役員会	
名古屋市内会専務理事打合せ会	
名古屋市内9法人会合同講演会	
税務情報	14
report	16
内山・大和・上野合同支部役員会	
青年部会定例会	
税務連絡協議会役員会	
県連理事会・賀詞交歓会	
青年部会家族会	
総務委員会	



名古屋国税局 課税第二部長

嶋橋 和夫

令和8年の年頭に当たり、公益社団法人千種法人会の皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、平素から税務行政につきまして深い御理解と格別の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

公益社団法人千種法人会におかれましては、税のオピニオンリーダーとして、「租税教室」や「税に関する絵はがきコンクール」といった税の啓発活動のほか、地域社会への貢献活動を実施していただいております。

私どもにとりましても、皆様のこうした活動は、大変心強いものであり、廣瀬会長をはじめ、役員の皆様並びに会員の皆様の日頃の御尽力に対しまして、心から敬意を表する次第であります。

昨年は、食料品をはじめとする様々な物価上昇への対応やアメリカとの関税交渉など、国内外の経済情勢に大きな関心が寄せられた一年でしたが、大阪・関西万博の開催や日経平均株価が史上最高値を更新するなど、国内経済に明るい動きも見られました。

このような中、新しく迎える年が、会員の皆様にとって充実した年となりますことを祈念いたしますとともに、公益社団法人千種法人会が引き続き魅力ある事業活動を展開され、会員企業と地域社会の発展に一層の貢献をされますことを御期待申し上げます。

私どもといたしましては、本年も引き続き、「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」という使命を果たすために、グローバル化やデジタル化の進展等の経済社会の変化に柔軟に対応し、様々な課題に的確に対応していくことが重要であると考えております。

国税庁が推進する「税務行政のDX(デジタル・トランスフォーメーション)」を更に前に進めるために、「納税者の利便性の向上」、「課税・徴収事務の効率化・高度化」に取り組むとともに、法人会をはじめとする関係民間団体の皆様や関係省庁とも連携を図りながら、「事業者のデジタル化促進」にも取り組み、社会全体のDX推進に貢献してまいりたいと考えております。

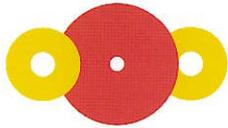
特に、源泉所得税に係るキャッシュレス納付の利用拡大に引き続き努めてまいりますので、法人会の皆様には、キャッシュレス納付の御利用のほか、周知・広報に御支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年も、法人会の皆様と十分に意思疎通を図りながら、信頼関係をより深いものとし、これらの取組を進めてまいりたいと考えておりますので、一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たりまして、公益社団法人千種法人会の更なる御発展と、会員の皆様の御健勝並びに事業のますますの御繁栄を祈念いたしまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



表紙の



人

取材日時…令和7年11月14日(金) 13:30~15:30  
取材場所…ホテルルプラ王山  
聞き手…太田照子 広報委員、不破秀公 広報委員

ハグニケーションは自分も人も幸せにする  
私はマインドを同じくした仲間たちと一緒に  
そのナビゲーターをやっけていきたいと思っています。

日本ハグ協会会長  
株式会社ハグニケーションズ代表取締役  
高木 さと子 さん



ハグニケーションの原点は  
自分や人を大切にする気持ちにあるのです。

—ハグニケーションとはどのようなものでしょうか。

ハグニケーションというのは、ハグとコミュニケーションを合わせた造語で、私が造った言葉です。人を励まし勇気づけるための愛情や親愛の気持ちを、言葉や表情、行動で示すこと…つまり心理的、言葉、身体的にハグすることなのです。ハグニケーションにはいろんな形があります。ハグっていうと身体的に抱きしめることを思い浮かべますが、必ずしも抱きしめることだけではありません。

—ハグニケーションを立ち上げたきっかけや経緯を教えてください。

私は社会人になってから、企業での秘書、モデル、営業などいろいろな職種を経験しました。結婚後、子育てをしながら美容業界に携わっていましたが、その中でマネジメントにおけるコミュニケーションの重要性を痛感したのです。その頃に知ったコーチングやメンタリング、組織開発を学び、やがてある方からお声掛けいただいて講演をすることになりました。そこから人づてに広まり、あちらこちらで講演をする機会が増えました。そんな日々の中で、夫が末期ガンの宣告をされました。子どもたち2人とも小学生の時です。1年半の闘病を経て夫は亡くなったのですが、その闘病中「自分に何ができるのだろう」と悩みました。そして「もう一度自分の大切な家族をハグしよう」と強く思ったのです。小学生の息子たちに、ある日、手を広げてみたのですが腕の下からピュッと抜けていって…。そんなことが3日続き4日目の朝、自分に問いかけました。「私は、何のためにハグしようとしているのだろう」と。結婚して夫が私を守ってくれてと思っていたけれど、これからは自分がこの家族を守ろうと心に決めて手を広げたのです。すると、息子たちは私の腕の中に飛び込んできてくれました。

それから、ハグを子育てに取り入れれた私が、闘病中の夫にいつものようにハグをするのと「痛い」と言うのです。病気は痛みとの戦いでもありました。その時思ったのです。「生きているからこそ、目の前にいるからこそハグできる」考えたら当たり前だけど、とっても大切なことを伝えていかなきゃ…この時の体験が、後からハグ+コミュニケーション=ハグニケーションという言葉が生まれた原点です。

—ヒントになったことはありますか。

いろいろなセミナーに行ったり講師をする中で、参加者は皆対話したり学んだりします。やはり自分がより良くなると思って集まっているわけですよ。そういう人たちはちゃんと向き合って自己開示したり人の話を聞いたり、お互いに寄り添ったりということが自然にできるのですよね。その時に「ハグっていいよね」と言われたことがきっかけでした。

日本人は、赤ちゃんには自然にハグをしますが、大人になるに従ってハグしなくなりますね。日本の習慣にハグは根付いていません。でもハグは一つだけの方法ではなく、いろんな形があると思ったのです。ハグは心のコミュニケーションでもあるわけで、ちょっとしたスキンシップや思いやりの言葉など、様々な形で自分の気持ちを表現すればいいのです。ハグはハードル高くても、「愛してる」とか「ありがとう」という言葉のハグならできますよね!

ある勉強会のプレゼンテーションで  
「日本ハグ協会」を立ち上げると発表しました。

—どのような思いで「日本ハグ協会」を立ち上げられたのですか。

ハグの大切さを多くの人に知ってもらいたくて「日本ハグ協会」を設立しました。発表



時、具体的なことはまだ何も決めていませんでしたが、沢山の共感をいただいたのです。活動を続けていくうちに、多くの研究でハグの効果について多くの研究がありエビデンスがあることもわかりました。一方で、イベントを重ねる中で、ハグを誤解した参加者が現れることもあり、「どう伝えるか」「どんな在り方で広めるか」を真剣に考えるようになりました。そこから、日本流ハグの作法が生まれ、やがてハグダンスも誕生しました。身体的なハグだけでなく、人を大切に作る心そのものをどう伝えるかを模索してきたのです。

多くの方に届けるためにも楽しく、面白おかしく生活に取り入れたら、人間関係はより良くなるし、結果的に関係の質が高まると思考の質が良くなり、そして行動の質が高まるという好循環が生まれると思うのですよ。

「日本ハグ協会」の活動として、信頼関係ができていたら自然に行動力や、やる気がアップしたりしますから、それを家庭とか企業、団体などに伝えていきます。ハグのマインドを持って、いろんなところで研修やコーチング活動をするのです。「日本ハグ協会」の活動は啓発活動ですからイベント、セミナーなどを実施、反響もいただいています。ブログにその活動を載せたりしましたが、不特定多数の方々に向けてのブログは難しい面も出てきました。そこで、クマのキャラクター「はぐよ」を作り、そのクマぬいぐるみに旅をさせたのです。ハグが必要と思われる企業経営者や親子のところへクマのポケットに手紙を入れて送るのです。「このぬいぐるみを受け取ったら大切な人をハグしてください。そして感想を私に送ってください」と。そして次に渡す人を考えてもらうのですが、もう日本全国を巡りました。時には海外にも行きましたよ。そして毎年8月9日の「ハグの日」に戻ってくるのです。クマを送られた皆さん、「日本ハグ協会」の会員登録をしてくださいました。ただ問題もありました。ハグが一人歩きして本来の意味から逸脱することもありました。そこで先ほどお話しした日本流ハグの作法とか、ハグする対象とか、ハグの順番など、いろんなことを言語化していきました。また、人を応援する学び「メンタリング」の養成講座を3年間にわたって行い、ハグの真理を伝えていきました。

## コロナ禍で再認識したコミュニケーションの大切さ ——スキンシップを止められたコロナ禍では、どんなふうに活動したのでしょうか。

コロナ禍が続き、スキンシップはおろか顔を合わせることもできなかつた状況で、人間関係がどんどん希薄になっていきましたよね。そんな中、欧米のハグする習慣が根付いている国で起きたことをお話ししましょう。高齢者の介護施設でのことです。

入所する高齢者と家族が面会する際、パーテーションのビニールシートを平らではなく腕を通す部分を付けたものにしたのです。こちらからもあちらからもギューっとハグすることができるようにしました。皆大喜びです。すごいニュースにもなりましたよ。やはり日本でも挨拶とか握手とか、日本流コミュニケーションができないと、日常に違和感があるのです。このニュースを知って、私も頑張ろう!と思いました。できることが限られる中、1年がかりで「ありのままでもいいよ、が一瞬で伝わるハグの習慣」という本を書きました。また、2025年8月にリリースしたのが「しあわせの魔法ハグニケーション」という絵本です。この絵本

は武蔵野大学のウェルビーイング学部長の前野隆先生、桜美林大学 山口創先生にもご推薦いただきました。この絵本は子ども向けに見えますが、実は裏テーマとして、お母さんたちに幸せになってほしいという願いが込められています。要するに一番大事なのは「自分をハグ」、ですね。ハグをして喜びを増やし、悲しみを軽減する…人はハグすればするほど幸せが循環していくのですよ。自分起点の関係性が大切なのです。その実例なのですが、名古屋近郊のこども園の、PTA役員会に向けて講演会を行ったのです。300人くらいいらっちゃったのですが「自分のことが好きな人」の問いに好きだと答えたのは2人だったのですよ。お母さん自身が自分のことを好きで幸せであれば、それは子どもにも伝わるというお話をしました。ウェルビーイングという言葉がありますが、そういう願いの上に行動すれば子育ても楽しめるし、パートナーとの関係性も良くなっていくのです。家庭が疲弊していると子どもは孤独感を抱えゲームばかりやり、それを叱られるたびに断絶が進んでしまいますね。パートナーも疲れて帰宅すれば文句を言われ、やり返す…。それぞれが居場所を無くしてしまうでしょう。拠点となる家庭、家庭の中心にいるお母さんが幸せ感を持てることが必須だと思います。

その講演会の後で連絡をくださった方がいて、過干渉の舅・姑と上手くいかず、その怒りを家族にぶつけ、自分がコントロールできなくなった、というのです。ある日、これじゃいけないと思って幼稚園に迎えに行った時、手を広げて子どもを抱き止めようとしたそうです。ところが子どもはすり抜けていったのですが、帰宅してからハグを求めてきたとか。帰宅したパートナーにも手を広げたら、戸惑いながらもギューっと抱きしめてくれたそうです。高木さんの言った通りだと思いましたとメールに書いてありました。加えて「私のカチカチになっていた心が解け、大嫌だった舅・姑に対して「この人を産んでくれてありがとう」と感謝が生まれてきた」ということでした。

人はハグなどのやさしい触れ合いによって、脳内にセロトニンやオキシトシンといったホルモンが分泌されることがわかっています。

セロトニンは、心を安定させ、不安やイライラを和らげる働きがあります。気持ちが落ち着き、前向きな思考が生まれやすくなります。

一方、オキシトシンは「愛情ホルモン」「絆ホルモン」とも呼ばれ、人との信頼関係を深め、安心感をもたらします。ストレスを軽減し、免疫力の向上にもつながるとされています

## リアルとオンラインの両輪で、ハグニケーションの活動を広げていきたいと思っています。

——今後の活動と目標をお聞かせください。

法人向けには、ハグニケーションのサイエンスを活かした研修やレクチャーを通して、幸せなリーダーを増やしていきたいと考えています。オンラインサロンも立ち上げ、多様なリーダーたちが毎月交流を重ねています。この気軽に参加できる場に、参加企業様が増えるといいなと思っています。

日本ハグ協会の活動では、絵本を活用しながら、ハグの幸せを伝える仲間を増やしていきたいです。ママ友同士の集まりなど、日常の中で自然に気づきが生まれる、そんな場づくりに役立っていただけたら嬉しいですね。



### ●プロフィール

高木 さと子(たかぎ さとこ)

岐阜県生まれ。愛知淑徳短期大学卒業後、東芝テック入社、支社長秘書を務める。その後モデルに転身、結婚後美容業界に携わる。多様な経験の中で、マネジメントにおけるコミュニケーションの重要性を痛感。コーチング、メンタリング、組織開発を学び2004年に起業、個人と組織の成長支援に本格的に取り組む。その中でコミュニケーションツールとしての「ハグ」の素晴らしさに気づき「日本ハグ協会」を設立、「ハグニケーション」の普及に努める。2014年に株式会社ハグニケーションズ設立、現在に至る。企業理念は、「動く人のしあわせをつくる」こと。個人が成長し、やりがいを感じながら働くことが、組織全体の活力となると考え、様々な企業でウェルビーイングな働き方を支援している

### 《執筆・メディア実績など》

- ・中部経済新聞コラム連載
- ・百五銀行顧客向けコラム執筆
- ・全トヨタ販売労働組合連合会機関誌HOLON掲載
- ・著書「ありのままでもいいよ、が一瞬で伝わるハグする習慣」(コスモ21)
- ・映画「きみはいい子」上映会トークショー登壇
- ・絵本「しあわせの魔法ハグニケーション」リリース
- その他、雑誌、テレビ、ライブ、イベントなど出演多数

# オール千種で頑張ろう

千種税務署長  
小池 一彰 氏



**明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。**

## ——1日の始まりは気持ち良く

千種税務署に着任して半年になりますが、日々心掛けているのは各職員との意思疎通です。毎朝、出勤すると副署長とともに各部署を回って挨拶をします。千種税務署には120名ほどの職員がいて、全員の名前と顔を覚えるのは難しいのですが、皆と直接顔を合わせ挨拶すると、何となく各人とコミュニケーションがとれているような気になります。これからも続けていくつもりです。7月に私同様、殆どの幹部職員が異動で入れ替わり、ある意味では新しいスタートになりました。

税務職員という職種から考えてもストレスを抱えることは結構あると思います。そんな時には一人で抱え込まず、皆に相談して皆で考えることが解決の糸口になるでしょう。ですから全職員に「みんなでやろう!」と伝えているのです。

各部門で署内研修があるのですが、そこで最初に伝えたのが「国税庁の使命」です。これは財務省設置法という法律の第19条からなるものです。「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する。」とされ、その使命を実行するための任務や国税庁の組織理念について話しました。職員は皆、承知していることなのですが、再確認のつもりで話をしました。

職員に伝えているのは、署に来られた方や電話で問い合わせをしてくださる方に対して、親切丁寧に対応し、気持ち良く手続きを済ませていただけるよう心配りをして欲しい、ということが一つ。もう一つは調査と徴収において、きちんと直すべきところは直し、適正に税を納めていただけるよう姿勢を保つことです。適正に税を納税された方と、そうでない方に不公平が生じてはなりません。簡単なことではありませんが、あるべき姿をしっかりと理解した上で仕事をして欲しいということをお伝えしています。

## ——千種区・名東区は歴史と自然が息づく街

千種区・名東区には代々この地にお住まいの方も多く、落ち着いた雰囲気のある街だと感じています。名古屋市

の中でも地域の歴史とか連携がしっかりと根付いている街だと思います。法人会や青色申告会の方々と話していても、先輩・後輩の繋がりがしっかりしているように感じますね。

また、この地はかつて織田家が治めた城下町でもあるようですから、しっとりとした気風土壌が根付いているのではないのでしょうか。私が以前勤めていた城下町・三重県津市、桑名市も同じような文化の薫りがしました。千種には日泰寺や城山八幡宮などの名所があり、公園や街路樹など自然も豊か、大学も点在する文教地区でもありますね。一方で今池などの商業地区もあり、バランスが上手くとれた地域という印象です。私は初めて国税局に異動した時に名古屋へ引っ越してきて鹿子殿の公務員宿舎で4年間過ごしました。東山公園や平和公園にもよく出掛け、その頃から千種区は自然が多く住みやすいところだなという印象を持っていました。

## ——今まで担った仕事の中で

今までの私の経歴の中で、税理士監理官というのがあります。一言で言うと税理士会と国税組織とのパイプ役のようなものです。税理士会は名古屋国税局管内に名古屋税理士会と東海税理士会があり、支部は全部で48。税務署と同じ数です。それぞれの税理士会役員と国税局の担当が協議をしたり要請をしたりしますが、その窓口となるのが税理士監理官です。私が任務に就いていたのはコロナ禍の真っ只中でしたから、所得税等の確定申告期の対応についての協議など色々難しいこともありましたが、今では良い思い出です。

前任の消費税課長の時は、トピックとしてインボイスが挙げられますね。発行事業者になるために申請して国税庁に登録する、という形ですが、その受付をする部署が消費税課の中にあつた。私が就任した時は登録に関する事務は落ち着いて来ていたのですが、新しい制度の導入ということで、登録された後の制度の取



扱いなどについて、先例のないケースもあり、国税庁への確認や国税局内の各部署との連携など色々大変なこともありました。

### ——野球少年から公務員への道

私は愛知県蒲郡市で生まれ、高校卒業まで過ごしました。子どもの頃から野球が好きで、中学・高校での部活は野球部に所属、御多分にもれず、将来は野球選手になることも密かに夢見ていましたが、相当早い段階で、夢は諦めることになりました。でも私のいた高校の野球部のエースで4番のS君はプロのスカウトの目にとまるような選手で、実際、何球団か練習を見に来ていました。

思い出に残るのは2年生の時、秋の県大会でベスト8まで勝ち進んだことです。ヤクルトにいたギャオス内藤選手が、当時豊川高校にいて地区予選で対戦、私、ヒットを打ったんです。嬉しかったですねえ。内野安打でしたけど…。また、享栄高校との対戦では近藤真一選手がピッチャー。初回、先頭打者のK君がヒットで出塁して2番の私には送りバントのサイン。バントには自信があったのですが、敢え無くスリーバント失敗で三振に終わりました。憧れるのをやめられなかったのかもしれない。熱田球場でのあの試合は今も鮮明に脳裏に焼き付いていますね。

野球は一生懸命やりましたが勉強は…嫌いでした。中学校までは成績も悪くなかったのですが、高校では決していいとは言えない成績…。就職もいいかなと思いはじめました。

就職するなら、と担任の先生がいろいろと教えてくださいました。その時に公務員への道も示してくださったのです。給料を貰いながら勉強させてもらえる税務大学校です。魅力を感じました。実家は商売をしており、部活のない土日には手伝いをさせられていたりしたので商売は嫌、サラリーマンがいいなと思っていました。親戚の人が郵便局や当時の国鉄へ勤めており、公務員もいいなと臆げに思っていました。こうして税務大学校へ入校、公務員になりました。そんな安易ともいえる進路チョイスでしたね。でも公務員になった以上は、野球魂で突き進んできました。

### ——街歩きとゴルフが好き。健康にも繋がる趣味です。

私は今、市内の公務員宿舎に住んでいます。朝5時に起き食事をした後、BSで朝ドラを2本観るのが日課です。7時45分に家を出て出勤、池下駅から税務署まで1kmほど歩きます。実は私、街歩きが好きで、休日に時間があるときはあちこち歩いて出掛けます。管内の状況を知ることでもできますから積極的に歩いています。千種税務署に来てからは一度ひと通り管内を横断してみようと思って、千種駅から藤が丘駅まで歩いてみました。先日は城山八幡宮にも行ってきました。

数年前から友人に誘われてゴルフをやるようになりました。

若い頃は若者のゴルフ流行りがあって私もゴルフをしていましたが、コースに出ることは少なく、殆どはいわゆるショートコースが中心でした。近年、またゴルフへ行くようになり練習をするのですが、なかなか上手くなれません。健康のためにやっている感じですね。

### ——和顔愛語と至誠通天

この署長室に掲げられている書ですが、一つは「和顔愛語」。これは柔らかくて朗らかな顔と愛のある言葉の大切さを伝える言葉です。平成元年7月、当時の国税庁長官が揮毫された書なのですが、実は浜松東税務署新設の折、奇贈されたものだそうです。2枚あって1枚は当然浜松東税務署に、もう1枚がここにあります。何故ここにあるのかは謎なんです。もう一つの「至誠痛点」は至る誠、天に通じる、という意味です。誠をもってすれば天は見ている、だから何事も誠を忘れるな、ということですね。この二つの座右の銘にされている私の元上司が教えてくれた内容ですが、本当にその通りだと思っています。

税務署の仕事は様々な方と接する機会があります。その場の雰囲気やコミュニケーションを良くするには、それこそ「和顔愛語」は大切な姿勢だと思います。当たり前のように実は難しいことですが、この二つの言葉を常に心に刻み、チーム千種で進んでいきたいと思っています。



#### ■プロフィール

千種税務署長 小池 一彰(こいけ かずあき)

昭和42年(1967)愛知県蒲郡市生まれ

#### 《経歴》

平成29年(2017)7月 津税務署 副署長  
 令和 元年(2019)7月 名古屋中税務署 特別国税調査官  
 令和 2年(2020)7月 総務部 税理士監理官  
 令和 4年(2022)7月 総務部 企画課長  
 令和 5年(2023)7月 名古屋東税務署長  
 令和 6年(2024)7月 課税第二部 消費税課長  
 令和 7年(2025)7月 千種税務署長 現職